

鈴木 和男

レチノイドは、急性前骨髄性白血病や乾癬、瘡瘡等の皮膚疾患の治療に用いられているが、関節リウマチや多発性筋炎などの炎症性疾患の治療薬としての可能性も検討されている。我々は、CAWS (*C. albicans* water soluble fraction) の投与によりマウスの冠動脈に血管炎を惹起するモデルを用いて、合成レチノイド Am80 による血管炎抑制効果を解析した。Balb/c マウスに CAWS を 5 日間腹腔内投与し血管炎を誘発したマウスに、Am80 を経口投与し、病理組織学的に血管炎発症抑制及び治療効果を検討した。さらに、血管炎の病態に重要な役割を担うと考えられる好中球、血管内皮細胞に対する Am80 の作用を *in vitro* で検討した。CAWS 投与開始時と同時に、または CAWS 投与開始 1 週後（血管炎発症後）より、Am80 4 mg/kg を経口投与し、5 週目に冠動脈を観察したところ、ともに病理学的に血管炎の程度を表す血管炎スコアの抑制効果を認めた。またヒト末梢血好中球は、Am80 刺激により活性酸素産生及び fMLP に対する遊走の阻害が認められた。ヒト臍帯静脈内皮細胞を用いた検討では、Am80 刺激により炎症性サイトカイン産生の抑制効果を認めた。Am80 は好中球や血管内皮細胞に作用し炎症抑制効果をもたらすと考えられ、血管炎に対する新たな治療選択肢となる可能性がある。

3. 可溶性 VEGFR3 は、角膜血管新生および角膜移植拒絶反応を抑制する

(眼科) 服部 貴明、後藤 浩
(Schepens Eye Research Institute)

Parisa. Emami-naeini, Sunil K. Chauhan
Daniel R. Saban, Reza Dana

【背景】 VEGF (Vascular endothelial growth factor) は、血管もしくはリンパ管新生を誘導するサイトカインであり、様々な疾患の病態に関与していることが報告されている。可溶性 VEGF レセプター 3 (VEGFR3) は、VEGF ファミリーのなかでも VEGF-C および D と結合し、その作用を抑制する。

【目的】 可溶性 VEGFR3 が角膜血管リンパ管新生および角膜移植片拒絶反応を抑制するか否かを検討する。

【方法】 BALB/c マウス角膜に 10-0 ナイロンを 3 針縫合し、角膜血管新生モデルを作成した。角膜移植モデルは、C57BL/6 マウス角膜を BALB/c マウスに移植し作成した。それぞれの術当日から可溶性 VEGFR3 (VGX-300: Circadian Technologies) を 150 mg/150 ul 腹腔内へ隔日投与した。コントロール群には、基剤である PBS を同様に投与した。角膜血管新生モデルでは、術後 1 週目に角膜を採取し、抗 CD31 抗体で血管を、抗 LYVE-1 抗体でリンパ管を免疫組織

化学染色し、蛍光顕微鏡で観察した。角膜移植モデルでは、移植後 8 週目まで細隙灯顕微鏡にて移植片拒絶反応を観察した。

【結果】 可溶性 VEGFR3 投与群は、角膜血管新生およびリンパ管新生を抑制していた。また、移植後 8 週目におけるコントロール群の移植片生着率は 50% であったのに対し、可溶性 VEGFR3 投与群では 87.5% と有意に正着率が高かった。

【結論】 可溶性 VEGFR3 は、血管新生およびリンパ管新生を抑制することから、移植片拒絶反応の治療に応用可能であることが示唆された。

4. 当科における扁桃病巣感染症例の検討

(耳鼻咽喉科学) 白井 杏湖、北村 剛一、高瀬聡一郎
根岸 美帆、鈴木 衛
(茨城医療センター・耳鼻咽喉科)
近藤 貴仁

【目的】 病巣感染症とは、限局した慢性炎症の存在が、離れた部位に反応性の器質的あるいは機能的障害を引き起こす疾患である。今回我々は、病巣感染症を疑い扁桃誘発試験を行った症例及び両側口蓋扁桃摘出術を施行した症例について検討したので報告する。

【対象】 2004 年 3 月から 2011 年 1 月まで扁桃誘発試験を行った 121 例で、その内訳は IgA 腎症が 34 例、掌蹠膿疱症が 69 例、滴状乾癬が 4 例、尋常乾癬が 6 例、異汗性湿疹が 4 例、その他の皮膚科疾患が 4 例である。そのうちの 40 例で両側口蓋扁桃摘出術を施行した。

【方法】 扁桃マッサージを行い、前後で体温・白血球数・血沈・尿蛋白・尿潜血の項目を比較した。また、手術を施行した症例について、術後成績を検討した。

【結果】 扁桃誘発試験を行った 121 例のうち陽性例が 34 例、陰性例が 87 例であった。術後、1 年以上経過を追えた IgA 腎症では 30 例中 18 例 (60%) の症例で腎機能の改善が見られ、半年以上経過を追えた掌蹠膿疱症では 15 例中 11 例 (73%) の症例で皮疹の改善が見られた。

【まとめ】 掌蹠膿疱症や IgA 腎症で両側口蓋扁桃摘出術は有効であると考えられる。

5. 当センターにおける ABO 血液型不適合腎移植の免疫抑制療法

(外科学第五) 今野 理、横山 卓剛、木原 優
城島 嘉磨、中村 有紀、濱 耕一郎
岩本 整、島津 元秀

2006 年の日本 ABO 血液型不適合移植研究会の発表によれば、2005 年は 95 例の不適合移植が行われ、増加傾向を示しており、移植時年齢も 50 歳以上がほぼ全体の 25% を占めて